



2020年9月11日

各位

会社名：株式会社SKIYAKI  
代表者名：代表取締役社長 宮瀬 卓也  
(コード番号：3995 東証マザーズ)  
問合せ先：取締役 酒井 真也  
(TEL. 03-5428-8378)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2020年9月11日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2020年3月13日の2020年1月期通期決算発表時に開示した2021年1月期（2020年2月1日～2021年1月31日）の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 当期の連結業績予想数値の修正（2020年2月1日～2021年1月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 5,507	百万円 71	百万円 57	百万円 5	円 銭 0.48
今回修正予想（B）	4,950	150	120	35	3.27
増減額（B－A）	△557	79	63	30	2.79
増減率（％）	△10.1	111.3	110.5	600.0	581.3
（ご参考）前期実績 （2020年1月期）	4,899	99	25	△225	△21.33

#### 2. 修正の理由

（売上高）

前回発表予想（2020年3月13日）に対し、アーティストグッズ等のオンラインでの販売を行うECサービスが好調に推移し、約550百万円の増加（前回予想比、以下同様。）が見込まれる一方で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響の長期化により、ライブ制作を行うO2O事業について、期末までの期間におけるライブの中止・延期及び入場制限等に伴う売上高の減少が約600百万円見込まれることに加え、足下でファンクラブ（FC）の有料会員数が伸び悩んでいることによるFCサービス（オープン型サービスの課金収入等を含む）売上高の減少約400百万円、その他連結子会社の売上高の減少等を含め、売上高は前回発表予想と比較して557百万円減少（△10.1％）の4,950百万円を見込んでおります。

(営業利益)

売上原価のうち、020 事業に係るライブ制作原価等の減少が約 500 百万円、FC サービスに係るロイヤリティの減少が約 170 百万円、EC サービスに係る倉庫物流費用の増加が 270 百万円、販管費から原価に振り替える開発に係る人件費の減少 31 百万円等により、売上原価は約 460 百万円減少することが見込まれ、販売費及び一般管理費のうち、人件費の減少が約 60 百万円、広告宣伝費の減少が約 30 百万円、決済金額の減少に伴う決済手数料の減少が約 25 百万円、M&A 等の投資の未実施によるのれん償却額の減少が約 20 百万円見込まれることなどにより、販売費及び一般管理費は約 170 百万円減少し、営業利益は 79 百万円増加 (111.3%) の 150 百万円となる見込みであります。

(経常利益)

営業利益の増加に加えて、営業外費用のうち、持分法適用関連会社における損失計上額の増加等により、持分法による投資損失が約 30 百万円増加する見込みであるため、経常利益は 63 百万円増加 (110.5%) の 120 百万円となる見込みであります。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

経常利益の増加に加えて、課税所得の増加に伴う法人税等の増加により、親会社株主に帰属する当期純利益は 30 百万円増加の 35 百万円となる見込みであります。

なお、修正予想の経常利益の金額に対する親会社株主に帰属する当期純利益の金額が少ないのは、当社グループは連結納税制度を適用しておらず、当期純損失を計上する見込みである連結子会社の欠損金を、当期純利益を計上する見込みである当社及び連結子会社の課税所得から控除することができず、節税効果を得られないこと、また、連結子会社では当該欠損金を含む将来減算一時差異に係る繰延税金資産を計上していないことから、税金等調整前当期純利益に対する法人税等の負担率が高くなるためです。

以上より、2021 年 1 月期の通期業績予想について、売上高 4,950 百万円、営業利益 150 百万円、経常利益 120 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 35 百万円に修正いたします。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上